



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

---

CITATION:

表紙ほか. 地球 1926, 6(1)

ISSUE DATE:

1926-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183133>

RIGHT:

地

球

大正十五年  
十二月  
第六卷

# 地球 第六卷 總目錄 大正十五年 六月—十二月

## 圖版

第一版 空中より見たる御嶽と焼嶽の兩火山……………(第一號)

第二版 つのや二種……………(第二號)

第三版 十勝岳の破裂……………(第三號)

第四版 近江野洲川三角洲上の人文……………(第四號)

第五版 福井市鑿井配水地圖……………(第五號)

第六版 明治七年樽前山噴火の圖……………(第六號)

太平洋地域の探検と開發<sup>(上)</sup><sub>(下)</sub>……………小川 琢 治……………<sup>三二</sup><sub>三七</sub>

四國東部の地形考察と地殼變動の意義……………船 越 素 一……………九

地球内部の組成(アダムス及ウイリアムソン)<sup>(一)</sup><sub>(二)</sub>……………寺 田 貞 次……………<sup>三</sup><sub>三</sub>

イギリス便り(八)……………寺 田 貞 次……………<sup>三</sup><sub>三</sub>

地理教材としての地形圖……………<sup>三三</sup><sub>三三</sub> 石見安芸山脈  
<sup>三三</sup><sub>三三</sub> 熊野川沿地方と紀州の東諸藩岸  
<sup>三三</sup><sub>三三</sub> 朝鮮新羅地方のカルスト  
<sup>三三</sup><sub>三三</sub> 佐渡島と文島岩と文島岩並  
<sup>三三</sup><sub>三三</sub> 戦東方の文島岩と文島岩並……………<sup>二八</sup><sub>二八</sub> 四〇  
<sup>二八</sup><sub>二八</sub> 四〇  
<sup>二八</sup><sub>二八</sub> 四〇

十勝岳泥流の速さ……………中村左衛門太郎……………<sup>九</sup><sub>九</sub>

紀伊湯淺附近産植物化石 Tempusky 屬に就いて……………遠 藤 誠 道……………<sup>八</sup><sub>八</sub>

生駒山脈生成論	横山次郎	全
地名に關する二三の傳説	福井薩男	二〇四
地球の橢圓率に就て	熊谷直一	二〇五
交通の障害に就いて	西龜正夫	二〇六
十勝岳活動の傳説と記録	柴原小市	二〇六
泉州堺安政大地震並に津浪の記録	上治寅次郎	二〇九
北米西部マ州に於ける接觸變質に就て(上) (下)(エスコラ)	菅谷泰昌	二一〇 二一七
磐城守山附近風土雜記	上治寅次郎	二一七
堺市四近鑿井地質	小牧實繁	二二四 二二五
三角洲上の地理(上) (下)	比企忠	二二六 二二七
岡山縣津山町に於ける地球學團第一回臨地研究會記事(一) (二) (三)	石川成章	二二八 二三三 二三三
福井市の地層及水層	早坂一郎	二三三
熱帶農業に就て	春本篤夫	二三六
若狹蘇門洞の奇勝と有用礦物	田中館秀三	二三六
太原系(Taiyuan Series)に就て		
隱岐島後の火山岩に就て(一)		
樽前山噴火歴史		

隱岐の牧畑

下間 忠夫 四三

臺灣に於ける自然人文結合の事實

金尾 宗平 四九

講話

石油地質學概要

大村 一郎

六五四三

四三二一一  
四六八八二五  
四六〇八七四

屋根概説

藤 田 元 春

八七五四三

四三二一一  
四六八八二五  
四七七八九六

摘 録

長尾、筑豊炭層と古期岩層との境界の性質 三七

坪井、岩石組成を識別する分散法及び岩石、成因

研究に於けるその應用 二七

伊藤、載寧の鐵嶺床 二九

横山、美濃第三紀層の軟體動物化石 三〇

神津、八木、自在丸、間瀬産魚眼石の脱水現象 三〇

神津、益田、曹達長石及月長石の透光及閃光と温度の關

係 三〇

飯盛、吉村、黑雲母中の多色性ハロ 三〇

横山、遠別、惠岱別油田の第三紀軟體動物 三七

横山、加賀能登の鮮新世貝類 三七

神田、南洋に於ける支那人 三七

飯盛、近江國田上山の放射能あるマンガンノザウル 三〇

飯盛、邦産ルビザウムの放射能度に就て 三〇

飯盛、吉村、長垂産鱗雲母の組成並に邦産雲母の 三二

リチウム含有量に就きて 三二

矢部、長尾、日本下部白堊紀に出るアレカプロチナ新屬 四五

矢部、半澤、日本のオルビトリナ含有岩石の地質時代 四五

### 新 著 紹 介

北海道火山湖研究概報 七三

小川琢治分縣地圖 七四

西湖より包頭まで 二五

# 目次

礦物岩石鑑定要覽……………	一四〇	江戸川に發掘された象……………	一四〇
大阪府郷土地理……………	一四〇	和歌山縣海草郡大崎村の地盤隆起……………	一四七
Sieler's Atlas of Modern Geography……………	一四一	雜誌「人文地理」現はる……………	一四六
日本地史の研究……………	二〇九	地球學團新入學團員(三月—五月)……………	二二八
セメント代用土の其用法……………	二一〇	地球學團新入學團員(六月—七月)……………	二二九
日本國誌資料叢書……………	二二〇	海洋の重力測定……………	二四〇
地理教材研究第八集……………	二二〇	第三紀に於ける地磁氣……………	二四〇
天氣と天氣豫報……………	二二一	朝鮮鑛業令中の鑛物の増加……………	二四六
登山家山嶽地圖……………	二二一	地理科本試驗問題……………	二四五
人文地理學概論……………	二二〇	大正十四年本邦對外貿易……………	二四六
東京地質調査第二回報告……………	二二〇	大正十四年十月一日の國勢調査の結果に據る日本内地の人口……………	二四七
横濱地質調査第一回報告……………	二二〇	第五回地球學團講習會概況……………	二四七
岩石鑛物及鑛床の顯微鏡的研究……………	二二一	信濃小野盆地の記事に就きて……………	二四七
臺灣地質鑛產地圖……………	二二二	西宮香櫨園附近洪積層と其化石……………	二二二
臺灣地質鑛產地圖說明書……………	二二二	ノリツツギの皮……………	二二三
地質學通論……………	二二二	本邦產櫨材の英國行……………	二二三
大陸漂移說解義……………	二二二	威鏡北道勒山鑛山の砒毒砂……………	二二三
大正十四年東南印度諸國の研究……………	二二二	英國の陶業……………	二二三
アイボリーナツト……………	二二二	カタンガのラザウム鑛床……………	二二四
大正十四年本邦港別貿易額比較……………	二二三	錫蘭のモナザイト及イルメナイト……………	二二四
十勝岳の破裂……………	二二三	世界新聞用紙產額……………	二二五
布哇に於ける邦人の珈琲園……………	二二三	日本最古の茶樹……………	二二五
		ノヴォシビルスク市……………	二二五

## 雜報

黒河の事情	三六
支那山東省の麥稈眞田	二六
比律賓に於けるカボックとゴム	二六
ウクライナ共和國	二七
西班牙の面積と人口	二七
伊太利の大理石	二八
世界の自動車數	二九
世界の葡萄酒額の割合	二九
江戸の火事	二九
光線と古生物學	二六
筑前遠賀郡洞山島の化石層	三〇三
筑豊國境金國山麓ミカルスト地形	三〇二
朝鮮各河水力豫察表	三〇
米國太平洋岸の魚類	三〇四
カールスコエ海航通	三〇四
支那國有鐵道の名稱と延長	三〇四
ミスシツビー水路完成運動	三〇五
スエズ運河通航船舶數	三〇六
紀伊日高郡白崎村の紡錘蟲石灰岩	三〇八
朝鮮の大理石	三〇八
金の生産統計	三〇四
沿海州の水田	三〇五
シベリア鐵道の改善	三〇五
暹羅の灌溉事業	三〇六

目次

石油の試掘に於ける微生物の層序學上の價值	三八
バルシヤの石油產地	三八七
ルクセンブルクの鐵鑛業	三八八
秘露國リマと其港カオヤ	三八八
慶州	四〇四
南口	四〇三
河内國中河内郡日下の貝塚	四〇七
日本海中の大和堆	四〇八
改版日本近海水深圖	四〇八
地球學關第一回研究發表會	四〇九
第四十五回文檢地理科豫備試驗問題	四〇九
日本から瑞西へ時計側及硝子輸出	四〇九
蘇丹の棉花	四〇九
智利硝石	四〇九
埃及の植物	四〇九
トボルスグ近況	四〇九
小麥世界產額	四〇九
世界最南の商港	四〇九
質疑應答	四〇九
褶曲山脈と斷層山脈の特性及び相互關係(文檢)	六
ダゾア事情	六
湖沼に關する歐文參考書	一〇九
西班牙夏期標準時	一〇九

# 目次

廬山	三三
膠州堆	三三
ワラキヤ	三三
リガ	三四
ラベス	三四
北海道地名をアイメ語に依つて解説せる著書	三五
琉球諸島の構造	三六
フランスの中央高臺	三六
マツキ	三九
近、遠日點と冬、夏至とが一致せる理由	三九
ロカルノ	三九

地球學團々員名簿(大正十五年十一月一日現在)(六號)

## 正誤

四二五頁 下欄最終行の蘇澳にスォーと読み方を附ける。

四二五頁 下欄表中の數量の下に千斤を入れ金額の下に圓を入れる。



# 地球

第六卷第一號

大正十五年七月一日發行

## 主要目次

圖版 第一版	太平洋地域の探検と開發(上) 小川 治
四國東部の地形考察と地殼變動の意義 船越 素	
地球内部の組成(アダムス及ウィリアムソン) (二)	
イギリス便り(八)	
地理教材としての地形圖(第廿三) 若見玄藏	
講話	
石油地質學概要(一)	
屋根概説(三)	
摘録	
新著紹介	
雜誌	
質疑應答	
地球第五卷總目錄	

京都市帝國大學內

地球學團

## 地球第六卷第二號（八月號）豫告

太平洋地域の探検と開發（下）……………

……………理學博士 小川 琢治

紀伊湯淺附近產植物化石 *Tempskya* 屬に就きて

……………理學士 遠 藤 誠 道

生駒山脈生成論……………理學士 横 山 次 郎

地球内部の組成（アダムス及ウイリアムソン）

（二）……………

磐城守山町附近風土雜記……………菅 谷 泰 昌

日本化石產地表（三）……………靜岡縣……………

……………理學士 中村新太郎

地理教材としての地形圖（第二十四）黃海道新幕  
附近のカルスト……………

### 講 話

石油地質學概要（二）……………理學士 大 村 一 藏

屋根概説（四）……………文學士 藤 田 元 春

### 摘 錄

### 新 著 紹 介

雜 報

質 疑 應 答

# 地球學團第五回講習會開催豫告

本學團は夏期休暇を用ひて左記の要領により地質現象を主題とした講習會を開く、學團員の御賛加を期待する。

開 期 大正十五年八月十五日より十九日まで五日間  
會 場 京都帝國大學内  
講師及題目 アルプスと日本との地質構造を論ず  
日本火山總説  
朝鮮の地質現象  
重力の測定と日本に於ける重力の分布  
北支那の地質

小川 琢 治  
本間 不二男  
中村 新太郎  
松山 基範  
山根 新次

時 間 割  
八月十五日 八時—十時 十時—十二時 二時—五時  
八月十六日 小川 松山 本間  
八月十七日 小川 中村 松山  
八月十八日 山根 中村 山根  
八月十九日 山根 中村 山根

懇親茶話會  
申込期限 八月十七日午後五時半より午後八時  
會 費 八月五日迄に地球學團に申込むこと  
宿 泊 所 金五圓、御出席の上御納めのこと  
前以て御通知あらば宿所を定め置く、一泊中食附二圓内外、京都市上京區田中門前町四三（百萬遍西門横）  
村上靜宜館へ行かれると御便宜を計る。

講習會員資格

地球學團員に限る。

此の際入團希望の方は地球學讀費半々年分以上な地球發行所博多成衆堂（大阪市南区大寶寺町西ノ丁二二番替  
大阪七金金參番）へ前納した上 地球學團へ宛て入團及び講習會參加を申込まれない。

大正十五年七月

地 球 學 團

# 地球學團第一回臨地研究會

本學團は普通の講習會では地學の眞髓に觸れることが出来ないを考へて、茲に第一回の臨地研究會を企て、地質調査並に地質圖製作の作業を會員と共に行はうとする。我國では始めての企であるから會員及支部員の學問熱を高めることを豫想する。

開 期 大正十五年八月二十二日より八月廿七日まで六日間

開催地 岡山縣津山町 會 場 津山中學校

指導講師 中村新太郎、松 下 進、黒田 徳 米

申込期限 八月十日までに地球學團又は岡山地球學團支部へ申込むこと。

會 費 金參圓、御出席の上御納めのこと。

會員資格 地球學團員又は學團支部員に限る。

宿泊所 津山町戸川町曙旅館。宿泊料は中食附約二圓

會員の持参を要する物品 傾斜儀、鐵槌、方眼紙野帳、五萬分地形圖津山町、周圀、坪井、福渡の

四圖集。(地形圖は京都市木津屋橋通堀川東入小林又七出張店(振替大阪六八九貳四番)

で購入されるが便利です。一枚十三錢送料二錢。)

本研究會は前頁豫告の講習會とは別個のものにつき御申込等は各別にされたい。

大正十五年七月

地 球 學 團

# 地球第六卷第一號

(大正十五年七月)

## 目次

圖版 第一版 空中より見たる御嶽と燒嶽の兩火山

太平洋地域の探検と開發(上)……………理學博士 小川 琢 治 一

四國東部の地形考察と地殼變動の意義……………船 越 素 一 九

地球内部の組成(アダムス及ウイリアムソン)(一)……………文 學 士 寺 田 貞 次 三

イギリス便り(八)……………文 學 士 寺 田 貞 次 四

地理教材としての地形圖(第二十三)石見安藝山塊……………理 學 士 大 村 一 藏 四

## 講 話

石油地質學概要(一)……………理 學 士 大 村 一 藏 四

屋根概説(三)……………文 學 士 藤 田 元 春 五

## 摘 錄

○大正十四年本邦港別貿易額比較

○長尾巧—筑豊夾炭層と古期岩層との境界の性質

## 質 疑 應 答

○長尾巧—佐世保炭田と唐津炭田との關係

○褶曲山脈と斷層山脈の特性及び相互關係

○ダザアガ事情

## 新 著 紹 介

○北海道火山湖研究概報○小川琢治分縣地圖

## 雜 報

○十勝岳の破裂○布哇に於ける邦人の珈琲園○アイボリーナ

## 地球第五卷總目錄

# 百科圖錄

本圖錄は學術的にして趣味を兼ねる現代唯一の權威ある百科圖錄なり

執筆擔當は京都帝國大學各科教授及び其他斯道の専門大家を網羅す

各科に於ける圖錄は各其體系を明にし、或は總論、或は各論、一見して其真諦を學び得べく、數葉示すところ別紙解説と相俟つて正に論述數千言句に勝る、圖錄は素より精巧なる寫真圖版なれば其一葉を以て美術掛圖として室内を飾るに足る。

▼毎月頒布▽壹輯拾貳葉▽玻璃版印刷▽厚手上質の約▽四六四倍版(約一尺×一尺三寸)▽帙入會費一ヶ月二圓▽送料實費半年以上一時拂は本會負擔

見本贈呈

眞に科學的智識の一大寶庫教育家は勿論一般家庭に缺くべからざる寶典なり

京都市上京區淨土寺南田町七十七番地

申込所

博雅同好會

振替(大阪七七三六八番)

## 地球前號 (第五卷第六號) 要目

圖版 第十一版 北上縱谷中流部の分水嶺式形圖

人文地理學上より 觀たる日本の都市(下)……………理學博士 小川 琢治

北上縱谷中流部に就いて……………理學博士 渡邊萬次郎

朝鮮平安北道南市地方の部落名……………向山 武男

日本化石產地表(二、和歌山縣)……………理學士 中村新太郎

上越線清水隧道測量の概況……………菅谷 泰昌

イギリス傾り(七)……………文學士 寺田 貞次

地理教材としての地形圖(第二十二)信濃小野盆地

## 講話

本邦に於ける造山作用火山作用及び鑛床生成の關係(下)……………理學博士 加藤 武夫  
附本邦鑛床の標式に就いて

屋根概説(二)……………文學士 藤田 元春

## 摘錄

## 新著紹介

## 雜報

## 質疑應答

（第六卷第一號）

第一條 本學團を地球學團といふ。  
第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の

第三條 事務所を京都市白川追分町京都帝國大學地質學教室内に

第四條 本學團の事業は次の如くである。

衆議院に開會の事行  
講演並に講習會の開催  
實也見學の指導

第五條 本學團員は地球購讀費として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。

第六條 本學團員になりたい人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球購讀費半分以上を、發行所へ送金する事。

第七條 學團を脱退しやうとする者は、其の旨を學團に通知する

電話大阪持南壹壹七七番

①購讀者の御註文及び廣告に關する件は博多成象堂へ御申込下され度候  
 ②本誌の御註文代金郵税共はすべて前金にて御送り下され度候  
 ③郵券代用にての御註文は一割増に願上候  
 ④振替一博多成象堂に願上候  
 ⑤七番「博多成象堂」に願上候  
 ⑥前金切りの場合は「前金切」の印章押捺致すべくに付直に御拂込下され度候  
 ⑦特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

一册	定價金五十錢	郵稅金貳錢
六册(前金)	定價金參圓	郵稅不申受
十二册(前金)	定價金六圓	郵稅不申受

廣告料 一頁 金五十圓

博多成象堂

大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

博多成象堂

東京市神田區錦町三丁目拾貳番地  
大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

(東) (大) (神) (京) (名)  
 京 阪 戸 都 古  
 北 盛 實 共 マ  
 隆 文 文 盛 ガ  
 堂 館 館 社 ジ  
 東 上 參 川 大  
 海 田 文 瀨 瀨  
 堂 社 屋 進 盛  
 大 堂 社 店 書  
 東 館 店 星  
 館 店 野 書  
 店 店 店 店

製複許不

---

載轉禁

編輯者 地球學團

右代表者 藤田元春

發行者 博多 久吉

印刷者 岸田重次郎

印刷所  
日本  
社印  
刷所

傳之

電話大阪特南壹壹七七番

東京市神田區錦町三丁目拾貳番地

博多成象堂

大阪七參參參

北見  
隆興  
館堂  
上野  
田澤  
屋敷  
大  
夏  
館

寶文館  
川瀬  
賴日  
進堂

星野書店

.....

# CHIKYU—THE GLOBE



Vol. VI. No. 1.

July, 1926.

Plate 1. Volcanoes of Ontake and Yakedake, in the Japanese Alps viewed from the Air.

## Geographical Considerations on the Pacific (1)

By T. Ogawa, *R. H.* ..... 1

## Orographical Notes and Crustal Movement of East Shikoku.

By S. Funakoshi ..... 9

## The Composition of the Earth's Interior.

(Adams and Williamson) .....21

## Geographical Correspondence from England and Scotland (8)

By T. Terada, *B. S.* .....35

## Topographical Maps recommended for Schools

(23).....40

## Lectures on Oil-Geology.

By I. Omura, *R. S.* .....44

## On the Development of the Outlines of Roof (3)

By M. Fujita, *B. S.* .....59

Abstracts—New Books—Geographical Notes—Inquiries.

**Chikyu Gakudan**

Kyōto Imperial University.



# 地球

第六卷 第二號

大正十五年八月一日發行

## 主要目次

圖版 第二版 京都府商桑田郡民家の二種	十勝岳泥流の速さ	紀伊湯淺附近産植物化石	生駒山脈生成論	地球内部の組成(メグマタ及後イリアムソン)(二)	地名に關する二三の傳説	地球の橢圓率に就て	地理教材としての地形圖	熊野川沿岸地方と紀州の東南海岸	講話	石油地質學概要(二)	屋根概説(四)	摘録	新著紹介	雜誌	質疑應答
理學博士 中村左衛門太郎	理學博士 藤田誠道	理學士 旗山外郎	理學士 遠藤	理學士 福井薩男	理學士 藤谷直	理學士 大村	理學士 藤川	理學士 藏							

京都帝國大學內

地球學團